



新たな時代の技術支援機関として

所 長 仮屋 一昭

4月1日付けで工業技術センター所長に就任いたしました。よろしくお願いいたします。

さて、今年は、平成から令和に元号が変わる新たな時代の幕開けの年です。平成の31年間は、経済・社会構造が大きく変化し、企業を取り巻く競争社会は劇的に変化しました。そしてその変化は、今も大きなうねりとして続いています。例えば、「ものづくり」に関しては、第4次産業革命（Industry4.0）やSociety5.0に向けた生産性革命が提唱され、従来の「もの」を売るだけでなく、IoTやAI、ロボット技術を活用した業種を超えたサービスとの連動が拡大しています。そして、来る新時代に向けて「Connected Industries」の実現が課題となっています。このコンセプトは、データを介して、様々な繋がりが生まれることで、新たな産業や付加価値の創出、社会課題の解決につなげていくものです。

このような社会情勢の中で本県では、平成30年3月におおむね10年後を見据えた鹿児島を目指す姿や施策展開の基本方向を明らかにする「かごしま未来創造ビジョン」を策定しました。ビジョンの柱のひとつ「革新的技術の競争力のある産業の創出・振興」の中で、IoT、AIなどを活用した中小企業等の生産性向上や競争力強化、産学官連携による既存産業の高度化・高付加価値化、新産業の創出、地域資源を生かした産業振興などの取組が示されています。また、本県の産業振興については、「かごしま製造業振興方針」の4つの柱のひとつである「たゆみないイノベーションと製品の開発・事業化による付加価値の創出・向上」に基づき、本県製造業がオンリーワンともいうべき強み（特色）を身につけることを目指して、各種の施策に取り組んでおります。

当センターでは、平成29年に企業活動支援を基本方針とした中期業務計画を改訂しました。県内企業の「技術の拠りどころ」としての機能を更に充実するために、次の3つに重点を置き業務を推進しております。

1 企業ニーズに基づく技術支援

企業のものづくり活動等の技術課題に対応するため、技術相談や依頼試験・設備使用、人材育成、情報提供などの技術支援の充実を図り、迅速かつ丁寧な対応を心掛け、利用者の皆様の満足度を高め、利用拡大に努めて参ります。

2 技術シーズの橋渡しによる県内産業の振興

研究開発の方向性を、「地域資源付加価値創出」と、「ものづくり基盤技術高度化」に定め、当センター独自の技術シーズの創出に向けた研究開発に取り組んでいます。この中から発展し、企業とともに事業化を目指す大型の研究開発補助事業に採択された研究課題や、技術・製品の戦略的な標準化による事業化支援の段階に進展している研究成果もあります。今後も、基盤技術となる研究開発に取り組み、これまで蓄積した技術シーズの橋渡しにより、県内企業の技術の高度化や新技術・新製品の開発などを積極的に支援して参ります。

企業等との共同研究・受託研究は、昨年度、提案公募型受託研究5件を含む25件を実施しました。今年度も積極的に共同研究等をすすめて参ります。

3 多様な連携によるものづくり支援

これまでの地域企業のニーズに対応したものづくり支援に加え、大学等や産業支援機関、国研や公設試等との連携体制を強化して参ります。

各種業界団体等とも緊密に連携し、地域のイノベーション創出と産業競争力の強化を担う技術支援機関として、地域経済の成長、発展に貢献して参ります。

新たな時代に向けて、地域に根付いた技術支援機関として、皆様のお役に立てるよう、職員一同、尽力して参りますので、これまで同様、当センターの積極的な御利用をお願いいたします。